

ノート入力

ノートとは？

DTMにおけるノートとは「音符」こと。

「音符」を英語で「Note(ノート)」と言い
MIDIデータ上で最も基本的なもので
以下の情報が含まれている。

- ノートの開始位置
- ノートの高さ
- ノートの強さ(ベロシティ)
- ノートの長さ(デュレーション)

ノートの開始位置

DAW上の、どのタイミング(位置)から開始するかという情報。

DAWでは「Bar」「Beat」「Tick」という基準を使って
楽曲の位置情報を表します。

「Bar」は小節、「Beat」は拍数

「Tick」はそれよりもさらに拍をさらに細かく分割した
情報を表しており「5 Ber | 2 Beat | 240 Tick」であれば
「5小節目の2拍目、240ティック」の箇所に
ノートの開始位置が設定されていることがわかります。

ノートの高さ

音の3要素でいう「音高」、音の高さを表す情報です。

MIDIデータ上は0から127までの
「ノートナンバー」という情報になります。

数字が低ければ音も低く、数字が高ければ音も高くなります。

中央の「ド(C3)」はノートナンバー「60」になります。

ノートの強さ(ベロシティ)

音の3要素でいう「音量」、音の大きさを表す情報です。

こちら0から127までの128段階で表され
正確に言えば「打鍵の強さ」を表すものです。

持続音などは、別のパラメータで調整が必要ですが
基本的な音の強弱は「ベロシティ」で調節され
打ち込みには欠くことのできないものになります。

ノートの長さ(デュレーション)

ノートの開始位置から
どれくらいの長さで演奏されるかを表した情報です。

DTMではこれを「デュレーション」と呼びます。

楽譜でいう「音価」とは少し意味合いが変わり
音符で表せないより微細な長さについても調節できます。

ピアノロール

ピアノロールとは
DAW上でノートを細かくエディットできる画面のことです。

- ノートの位置
- ベロシティ
- デュレーション
- その他各種パラメータ

など、さまざまな要素を細かくエディットすることができます。

Tick(ティック)について

ティックとは、楽譜上に書き表せない細かい音の時間軸を表す単位です。

昨今のDAWでは「4分音符 = 960ティック」となっている場合が多く、4分音符をさらに960段階に区切り音価より細かい調整ができるものになっています。

グルーヴなどの細かい調整にはティック単位での調整が欠かせません。

ノートの入力方法

MIDI鍵盤など使った「リアルタイム入力」と「ステップ入力」
マウスなどの「直接入力」などがあります。

リアルタイム入力は、実際の演奏をMIDIデバイスを通じて
記録していくため、うまく演奏できれば鬼に金棒です。

ステップ入力や直接入力は、エディットの手間が大きい
がうまく演奏できなくとも手軽に行うことができます。